

中・韓との「歴史観」の矛盾を完全図解!

イースト・プレス
特別取材班[編]

緊急特集 靖国問題

小泉^{首相}は、なぜ「靖国参拝」
にこだわるのか?

彼らは、なぜ反日運動に生命^{いのち}をかけるのか?

中国・韓国 の 歴史教科書

徹底検証!

巻頭特別
インタビュー

黄文雄

評論家・拓殖大学客員教授

「反省」ばかりに囚われすぎると、
「本当の歴史」が見えなくなる!

4人の論客が「反日教育」の核心に迫る!

藤岡信勝 秦郁彦

新しい歴史教科書をつくる会副会長

現代史家

宮崎正弘 松原仁

評論家

民主党・衆議院議員

ここがヘンだよ! 中国・韓国の歴史教科書!

中国 ●日本が勝利した「日露戦争」はなかったことに? ●日本を降伏させたのは「毛沢東の指令」?

韓国 ●日韓併合反対派の伊藤博文暗殺は「義拳」? ●従軍慰安婦問題は「民族抹殺政策」?



East Press
Nonfiction
Special

イースト・プレス

松原仁

民主党・衆議院議員

「反日教育」には世界も批判的。 いまこそ、「弱腰外交」 から脱却せよ！」

暴動といわれるほどに大々的に行われた反日デモ。原因は、謝罪を繰り返すばかりの日本外交の無為無策にある。だが、「日本は中国どころか、あらゆる国のいいなりになってきた」と主張するのは、松原仁民主党議員だ。政治の立場から見た「反日の真相」を明かす。

**問題は、日本がいかなる国に
対しても「弱腰」だったことだ！**

なぜ、戦争も知らない若者たちが反日を合言葉に暴動を繰り返したのか。原因は、江沢民以降、とくに強まった反日教育の賜物たまものです。そのベースにあるのが教科書です。

たとえば、いまの中国の高校生用の歴史教科書には、日本が侵略を意図して戦争を起こした証拠とされる「田中上奏文」が掲載されています。しかし、これは有名な偽文書。実際は、中国が意図的に作成したプロパガンダであること

が知られています。

さらに、少し前の教師用指導書には、日本に対して、「恨みを植えつけるようにしなければならぬ」と明記されていました。

中国は、毛沢東の時代から、3〜5%の敵を組織の中につくって、それを攻撃することで組織の団結を図るといふ闘争方針を持っています。

江沢民は、敵を外、つまり日本に求めることによって中国の国内矛盾への批判をかわそうとしました。反日教科書、反日映画、反日記念館をあちこちにつくったりして、メディアミックスで戦略的に反日運動を駆り立ててきました。

ところが、こうした中国の反日教育も、ここ数年でトーンが変わっています。

先ほどの教師用指導書も、以前は感情的だった記述が目立っていましたが、最近では、「日本の一部右翼的な勢力が南京大虐殺の真相を隠蔽かくぺいしようとしている」とか、「南京大虐殺の実態を日本の子どもたちに手紙を書いて知らせましょう」などと、ソフトな反日路線に変化してきています。

また、本音は反日をもっと強烈に打ち出したくとも、国際化に伴って、それも難しくなってきたという事情もあります。中国は国際ルールを無視する未熟な国という認識が先進国の

間で広がるマイナスを考慮して、一転してデモ禁止に舵を切ったのです。

江沢民の反日教育は15年も続いていました。生徒たちはびっちょり洗脳され、今後は中国で影響力を持つ世代になっていく。今後、日・中間の対立は激しくなるでしょう。

日本の歴史教科書には、「独自の歴史観」がない!

一度刻まれた記憶は、たとえ誤りであっても、打ち消すのはたいへん難しい。たとえば、97年

に出版された『レイプ・オブ・南京』という本はアメリカでベストセラーになって、英語圏の人々に、日本軍は南京でナチス以上のジェノサイドを起こしたことになっていますが、書かれた内容や使用された写真は、ほとんどデタラメだったことが判明しています。

私は外務委員会を取り上げ、日本政府として何もしていないのかと問いたただいたのですが、外務省の返答は、「対応はちゃんとしている。アメリカの大使館で反論の記者会見を開いた」というものでした。

しかし、大使館で記者会見をしたところで、

それを知ることのできるアメリカ人は何人いるのか。片方はベストセラーで、世界中に噂が喧伝されてしまったわけですよ。

日本は商人国家ですから、大きな貿易相手国である中国に悪く思われたくなくて弱腰になるといわれています。しかし、外交においても、中国だけでなく、いかなる国に対しても弱腰であり続けてきたのです。

扶桑社以外の日本の歴史教科書には、諸外国のいいなりになっているようなところがあります。

原子爆弾投下については、太平洋戦争が早期に終結してよかったとして、悲惨さについては触れない。

他国の教科書では数ページにわたって人道に対する罪を批判しているのに、当事国の日本は、写真の下にわずか数行。

南京事件についても中国のいいなり、日韓併合についても韓国のいいなり。日本の歴史教科書には歴史観がない。

外交というのは、意思と意思による呵責のない闘いですが、われわれは意思をもたらず原点を持つていない。その理由は東京裁判にあるのではないかと思います。果たして、東京裁判は合法的に裁かれたのでしょうか。人道に対する罪である典型的原爆投下について裁かれなかったのは、おかしくありませんか。

日本が抱える多くの問題は、戦後が総括できていないことが根本にあるのです。

松原 仁(まつばら じん)

民主党衆議院議員。拉致議連事務局長代理。「次の内閣」総括副大臣(防災・科学技術担当)。1956年東京都生まれ。早稲田大学商学部卒業。松下政経塾入塾(2期塾生)。89年東京都議会議員選挙にて初当選。2000年東京3区より衆議院議員選挙に立候補し初当選。